

令和6年度 南港北中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	101	55	47	4.5	11.5
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	108	65.1	51.8	44.7	56.6	52.5	4.3	4.7	15.0	2.6	6.5
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9

※ 3年生の理科はC問題を選択

令和6年度 南港北中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

- 全国と比較して、「読むこと」の領域において、全国、大阪府の平均正答率を上回っていた一方で「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では下回っていた。
- 問題形式でみてみると、選択式の「文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる問題」「行書の特徴を理解しているかどうかをみる問題」の正答率が、全国、大阪府と比較して低かったが、「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題」は、全国、大阪府と比較して特に高かった。
 - 授業だけでなく日常の学活においても生徒同士の話し合いを大切にしていることもあり、「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域では他の領域と比べて正答率が高くなつた一方で、「話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる」という力の育成にあたり、今後はさらに班活動などを通して話し合いの力をつけさせていきたい。
 - 「文脈に即して漢字を正しく書くことができる」については、入学時より漢字の定着率が低いことから、朝の学活の時間や国語の授業の帯活動として小学校で学ぶ漢字の復習を継続的に行ってきました成果であると考えられる。
 - 無回答率は、記述式の問題形式において、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題」「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題」の無回答率が全国、大阪府と比較して高かった。また、短答式の問題形式において「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる問題」「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題」の無回答率は、全国、大阪府と比較して低かった。

<数学>

全国と比較して、「データの活用」の領域において、特に平均正答率が低く、全国、大阪府平均を大きく下回っている。

- 成績上位者(国語・数学の全問正解者)の割合は、数学に関して、全国、大阪府と比較して同じくらいの割合であった。
- 正答率は、無回答率にかかわらず、全般的に同じくらいか全国、大阪府平均より低かった。とりわけ「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題」が特に正答率が低かった。
- 無回答率は、「簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題」「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題」「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題」の無回答率が全国、大阪府と比較して高かった。また、選択式の問題形式において、「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題」、短答式においては、「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題」「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる問題」「与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題」「グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題」の4題、記述式においては、「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」の無回答率は、全国、大阪府と比較して低く、なんとか解答にたどり着こうと模索する力が少しずつついてきたと考えられる。

以上のことから、本校生徒は、テストに対して真面目に取り組み、懸命に解答しようと努力している。ただ国語についてはなんとか解答は書いているものの、数学においては何を求められているのか十分につかみきれず、無解答となっているものが一定数いてその底上げが課題である。また、正答率の高い基礎的基本的な事項が身についている者が多い一方で、選択式問題などで、注意深く問題を読み切れていない可能性や問題を解いている中で不注意なミスをしてしまった可能性があり、見直す習慣づけが求められる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

- 平均点は大阪府全体の平均とほぼ同じであった。
- 各教科ごとの対府比は、数学は0.91で大阪府や大阪市の平均点を上回れなかった。英語は、0.98、国語は、1.00で大阪府の平均点とほぼ同じだった。社会は、1.03、理科Cは、1.08と大阪府や大阪市の平均点を上回ることができた。
 - 3年間の対府比の推移を見てみると、国語は、1年時から0.95→1.01→1.00、社会は、0.98→1.01→1.03、数学は、0.95→0.94→0.91、理科は、1.02→1.04→1.08、英語は、0.93→0.94→0.98という結果になった。本校については、1年時に最も対府比が低かった英語科で、2年時より学力向上支援事業を活用した結果、平均点は若干下回っているもののはぼ大阪府平均に近づいており、成果が表れている。

<課題>

国語科

得意分野: 文章の言葉の働きや構造を理解し、文章に基づいて内容を把握する力は高かった。

課題分野: 筆者の考え方を理解する力や、文脈に合わせた適切な表現を行う力、また、話の構成を整理して伝える力に課題があつた。特に、自分の考えを明確に伝えることや、省略された表現の活用に関しては弱点が見られた。

社会科

得意分野: 地図の縮尺の活用や地中海式農業、ツバルの海面上昇問題については理解できていた。

課題分野: 鎌倉幕府の出来事の時系列の理解や、日本と明の貿易についてなど、深い考察が求められる問題で正答率が低かった。

数学科

得意分野: 正の数と負の数の計算や、問題の対象を明確に捉える力は高かった。

課題分野: 一次関数のグラフ式の変形、証明問題など、数学的な論理的思考を要求される問題で正答率が低かった。特に、図形の座標から関数を求める問題や、データの分布を比較して説明する問題で課題が残った。

理科C

得意分野: 外骨格や胎生、梅雨の天気図、塩化銅の電離、染色体の問題など基礎的な理解は良好だった。

課題分野: 磁界の影響や溶解度曲線に基づく実験の計画など、応用力を問う問題で課題が残った。

英語科

得意分野: 日常的な話題に関するリスニングや会話の要点を捉える力は高かった。

課題分野: 与えられた情報に基づいて、指示された語数で英作文をする問題や、文法や語彙を使いこなす問題で正答率が低かった。コミュニケーションの場面に応じた英作文や適切な語彙を使う力に課題が残った。

以上のことから、本校生徒は、各教科において基礎的な理解はできているものの、応用力や表現力が必要な問題で課題が目立つた。例えば、論理的な考察を必要とする問題や、実際の場面に応じた表現が求められる問題にどう取り組ませるかが課題となってくる。特に、思考力を深める練習や、表現力を高める練習にある程度の時間を割くためには、さらに教科横断的に全教科で取り組んでいかなければならない。

**令和6年度 南港北中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

【今後に向けて】

<国語>

これまでの一斉授業から相互の意見交換ができるような形態に変えていくことで、生徒同士の意見交換も活発になり、話し合う活動を通して相手の意見と自分の意見の相違を意識できるようになってきた。今後は学習端末の共同編集を活用して、グループの考え方や意見を共有したり、自分の言葉でまとめなおしたりするなど、総合的読解力の育成も含めてプレゼンテーションの機会も設けていきたい。同時に、資料から必要な部分を取り入れたりする力を育成できるような授業展開を工夫していきたい。

<数学>

計算問題を解けるようになるだけでなく、グラフや資料を用いて何をここでは求められているのか、問いかの意味を理解して論理的に解答していく力を伸ばすことが今後さらに求められてくる。そのためには習熟度別の少人数の授業を活用して基礎基本から応用までの理解度に応じた授業展開を工夫し、授業内容の一層の定着を図りたい。そしてそれぞれの生徒が数学の楽しさにふれてより理解したいと思えるような数学の視点を大切にした授業づくりをすすめていきたい。

<社会>

変化の激しい現代社会において自分の周囲だけでなく多様な社会の動きに興味・関心をもつことができるよう端末を活用した動画の資料などを提供し、視野を広げられるようにする。また、グループでの話しあいの機会を設け、相互の意見を尊重する態度を養う授業をつくりていきたい。

<理科>

日常的な授業の場において視覚的教材をはじめとして演示や簡単な実験を取り入れて生徒自身が体験として学びとれるようにしている。その結果、理科に興味をもつ生徒が多くなり、主体的に学ぼうという姿勢が養われている。今後も自分で予想を立てて考えさせる授業をすすめていきたい。

<英語>

リスニングや読解力は良好なので、さらに実生活での英語使用をイメージした実践型のタスクを取り入れるような授業を考えている。例えば、ポスター内容を要約し、グラスマートと意見交換するアクティビティを取り入れていきたい。「書くこと」への課題については、情報に基づいた英作文練習を短文から始め、段階的に語数を増やす訓練をする。例えば、指定語数内で要点を捉えた作文練習や場面設定を詳細に示し、それに合った表現を考えさせる授業をすすめていきたい。

令和6年度中学生チャレンジテスト（3年生）

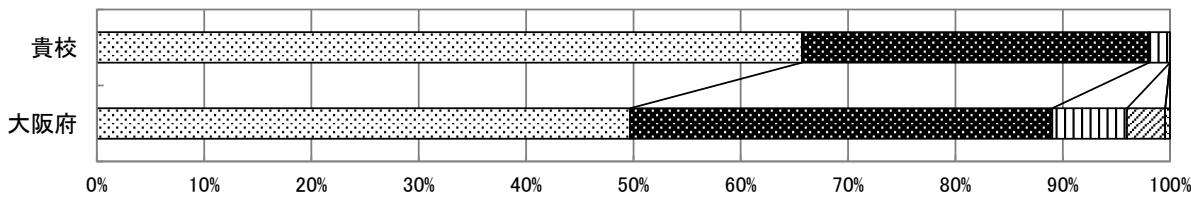
アンケート結果

大阪市立南港北中学校

	生徒数
貴校	102

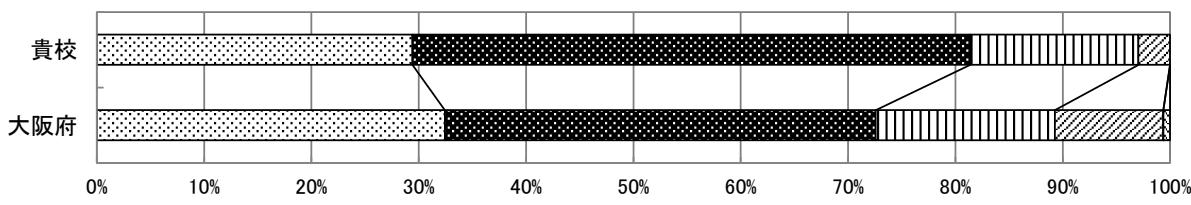
質問番号	質問事項									
問1	文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	65.7	32.4	2.0	0.0	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	49.7	39.3	7.0	3.6	—	—	—	—	0.0	0.5

- 1. 当てはまる
□2. どちらかといえば、当てはまる
□3. どちらかといえば、当てはまらない
□4. 当てはまらない
□その他
□無回答



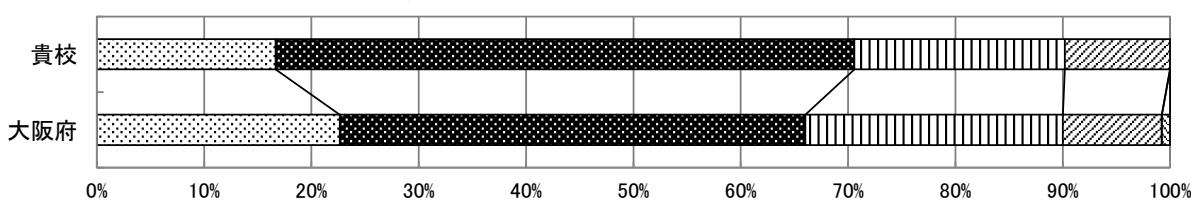
質問番号	質問事項									
問2	わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	29.4	52.0	15.7	2.9	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	32.4	40.2	16.7	10.1	—	—	—	—	0.0	0.6

- 1. 当てはまる
□2. どちらかといえば、当てはまる
□3. どちらかといえば、当てはまらない
□4. 当てはまらない
□その他
□無回答



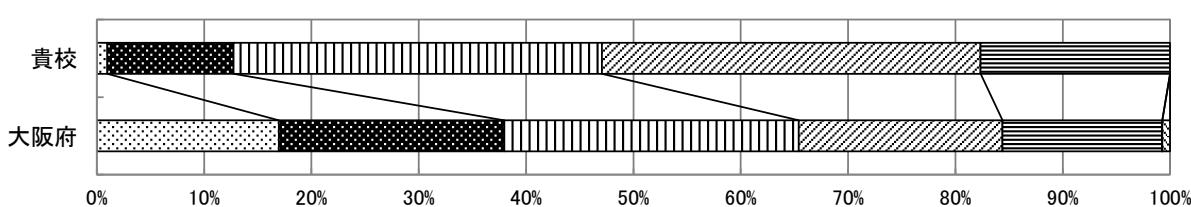
質問番号	質問事項									
問3	授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	16.7	53.9	19.6	9.8	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	22.6	43.4	24.0	9.2	—	—	—	—	0.0	0.8

- 1. 当てはまる
□2. どちらかといえば、当てはまる
□3. どちらかといえば、当てはまらない
□4. 当てはまらない
□その他
□無回答



質問番号	質問事項									
問4	授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	1.0	11.8	34.3	35.3	17.6	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	17.0	21.0	27.5	19.0	14.9	—	—	—	0.0	0.7

- 1. ほぼ毎日 □2. 週3回以上 □3. 週1回以上 □4. 月1回以上 □5. 月1回より少ない □その他 □無回答



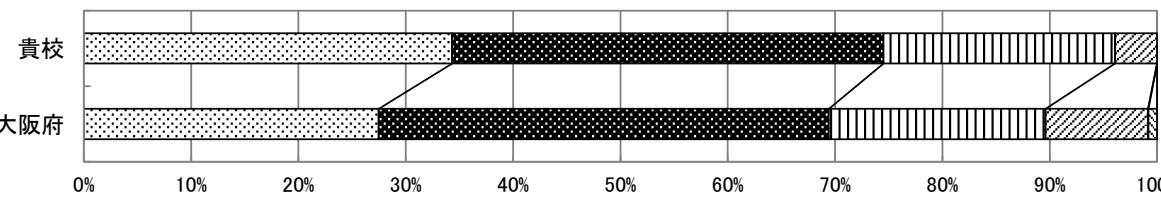
令和6年度中学生チャレンジテスト（3年生）

アンケート結果

大阪市立南港北中学校

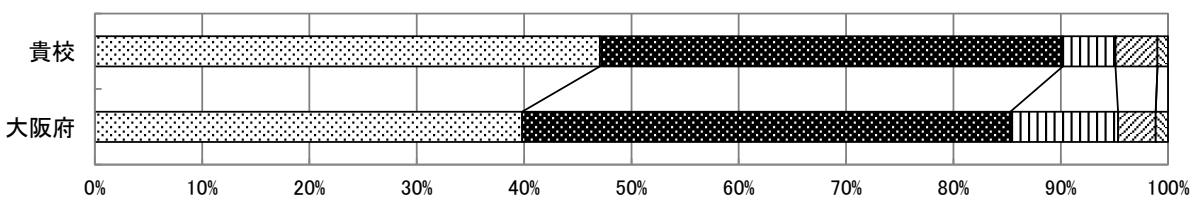
質問番号	質問事項									
問5	家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	34.3	40.2	21.6	3.9	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	27.5	41.9	20.2	9.5	—	—	—	—	0.1	0.8

- 1. 当てはまる
□4. 当てはまらない
- 2. どちらかといえば、当てはまる
□その他
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
□無回答



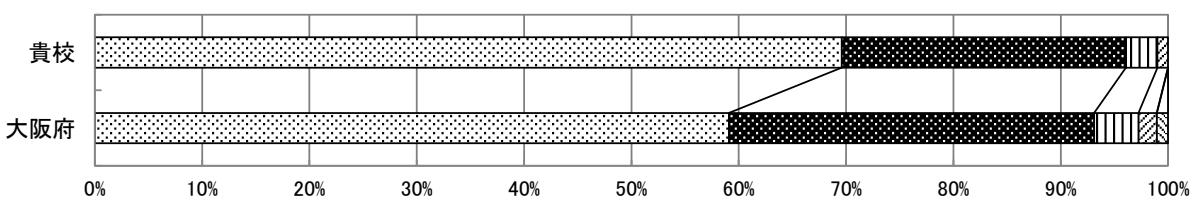
質問番号	質問事項									
問6	あなたの学級は、違った考え方や意見を受け入れる雰囲気がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	47.1	43.1	4.9	3.9	—	—	—	—	0.0	1.0
大阪府	39.8	45.5	10.0	3.5	—	—	—	—	0.0	1.1

- 1. 当てはまる
□4. 当てはまらない
- 2. どちらかといえば、当てはまる
□その他
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
□無回答



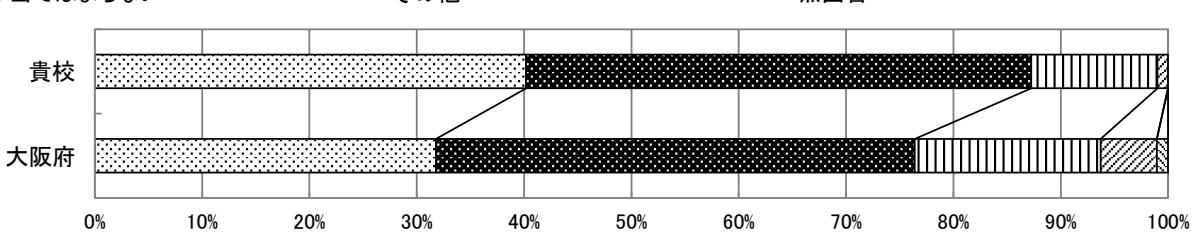
質問番号	質問事項									
問7	学校などで、他の人と協力し合うことができる。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	69.6	26.5	2.9	1.0	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	59.1	34.0	4.1	1.7	—	—	—	—	0.0	1.0

- 1. 当てはまる
□4. 当てはまらない
- 2. どちらかといえば、当てはまる
□その他
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
□無回答



質問番号	質問事項									
問8	難しいことがあっても、あきらめない。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	40.2	47.1	11.8	1.0	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	31.8	44.6	17.3	5.2	—	—	—	—	0.0	1.0

- 1. 当てはまる
□4. 当てはまらない
- 2. どちらかといえば、当てはまる
□その他
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
□無回答



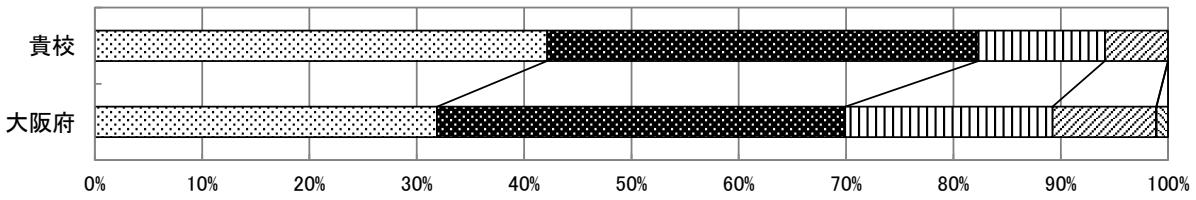
令和6年度中学生チャレンジテスト（3年生）

アンケート結果

大阪市立南港北中学校

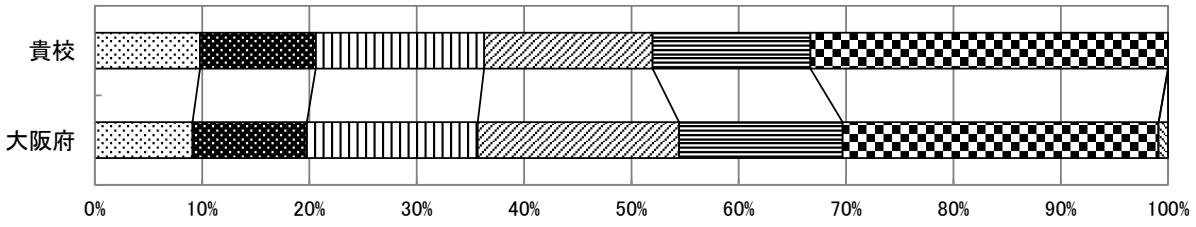
質問番号	質問事項									
問9	テレビや新聞、インターネットで社会的な出来事に関するニュースを見ている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	42.2	40.2	11.8	5.9	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	31.9	38.0	19.3	9.7	—	—	—	—	0.0	1.1

1. 当てはまる
2. どちらかといえば、当てはまる
3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない
その他
無回答



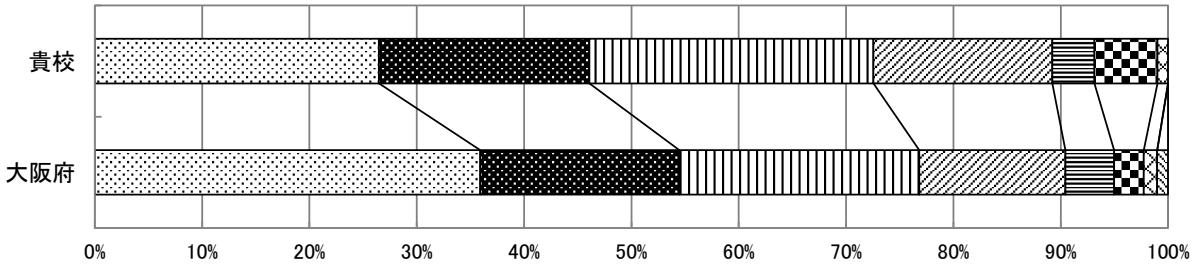
質問番号	質問事項									
問10	普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、本(教科書は除く)を読みますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	9.8	10.8	15.7	15.7	14.7	33.3	—	—	0.0	0.0
大阪府	9.1	10.7	15.9	18.8	15.2	29.4	—	—	0.0	0.9

1. 2時間以上
2. 1時間以上、2時間より少ない
3. 30分以上、1時間より少ない
4. 10分以上、30分より少ない
5. 10分より少ない
6. 全くしない
その他
無回答



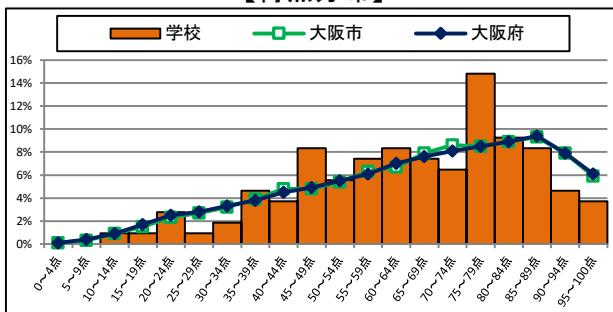
質問番号	質問事項									
問11	普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、学習以外(ゲームやSNSなど)にスマートフォンやタブレットを使っていますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	26.5	19.6	26.5	16.7	3.9	5.9	1.0	—	0.0	0.0
大阪府	35.9	18.6	22.4	13.6	4.5	2.8	1.3	—	0.0	1.0

1. 4時間以上
2. 3時間以上、4時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない
5. 30分以上、1時間より少ない
6. 30分より少ない
7. スマートフォンやタブレットを持っていない
その他
無回答

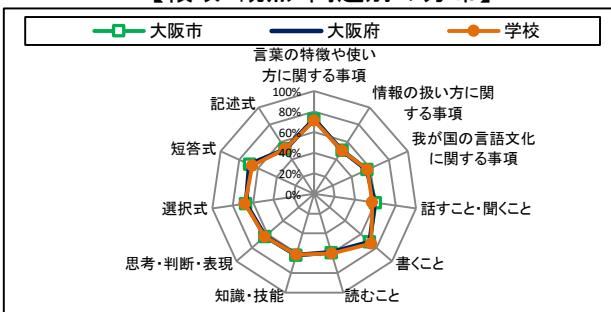


【国語】

【得点分布】

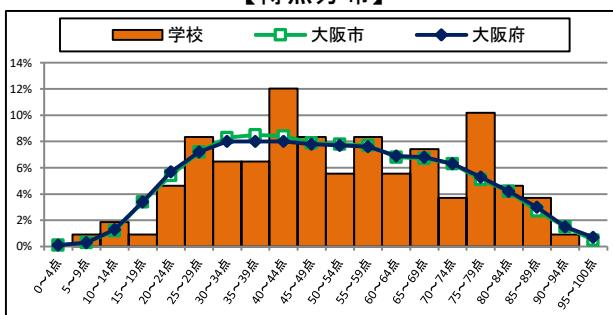


【領域・観点・問題別の分布】

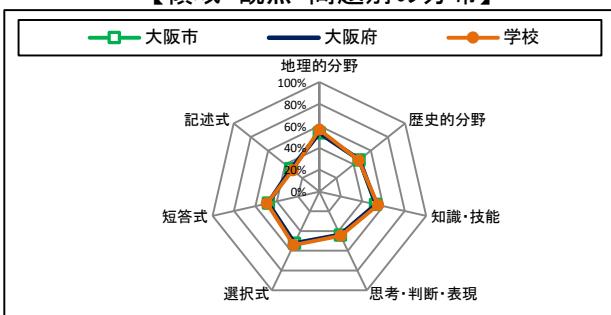


【社会】

【得点分布】

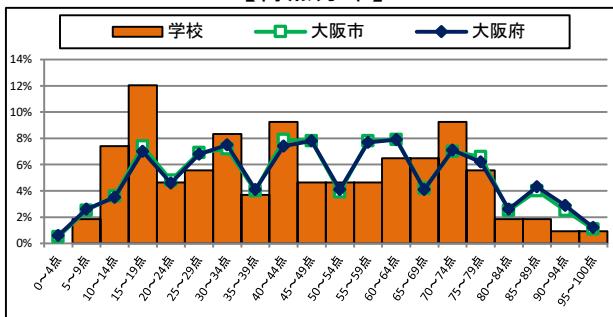


【領域・観点・問題別の分布】

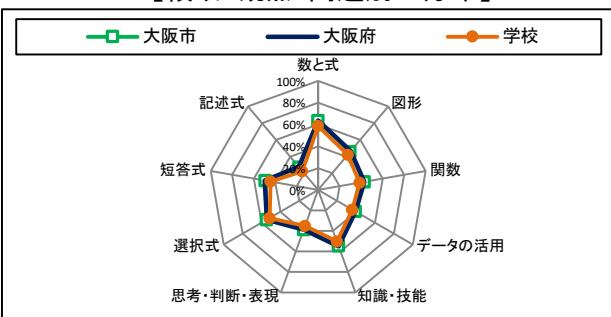


【数学】

【得点分布】

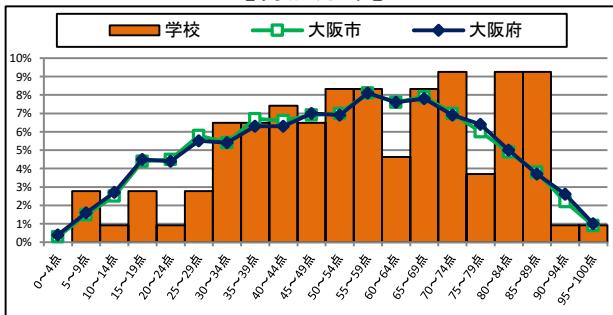


【領域・観点・問題別の分布】

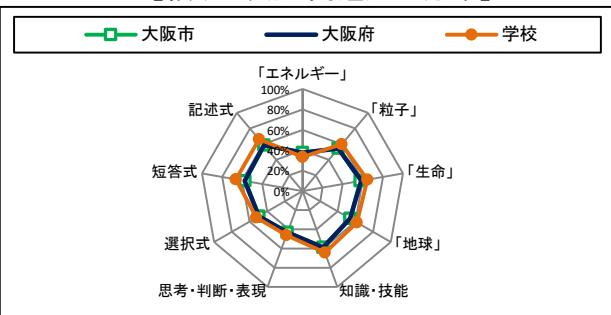


【理科C】

【得点分布】

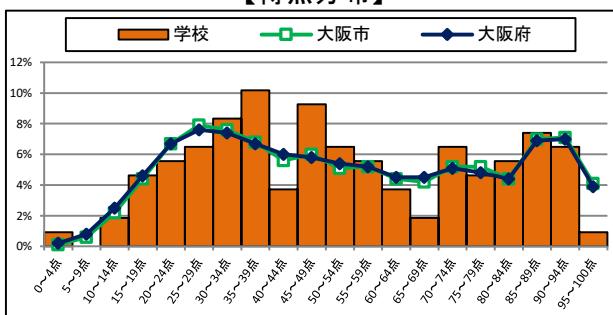


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

